

## <中国> 松江工業高等専門学校

\*\*\*\*\*断り\*\*\*\*\*

図や一部文章は当該高専 HP 及び当該高専が作成する資料より引用

松江工業高等専門学校 HP : <https://www.matsue-ct.jp/m/index.php>

2020 年度松江工業高等専門学校 学校要覧 : [学校要覧](#)

\*\*\*\*\*

\*アクセス(図 1 は松江高専 HP より引用)

〒690-8518 島根県松江市西生馬町 14-4



図 1 アクセスマップ

### \*特色

- ・ 1964 年に創立
- ・ 本科は機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境・建設工学科の 5 学科編成
- ・ 専攻科は生産・建設システム工学専攻、電子情報システム工学専攻の 2 専攻
- ・ 環境を考慮したエンジニアの育成に力を入れている

\*教育目標・教育理念(一部文章及び図表は松江高専 HP より引用)

◎松江工業高等専門学校 教育理念(本科卒業生および専攻科修了生の将来的目標)

「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」

学校とは、人間的成長を促す場である。

「学ぶ」ことは、その成長の核心にあり、生涯持ち続けるべき姿勢である。健全な心身を保ち、自己を向上させようとするからこそ「学ぶ」ことにほかならない。本校は、工学を学ぶ志を持った学生に対し、人間的成長はもとより、創造的な「エンジニア」をめざした教育を行う使命を持つ。

「創造力」とは、新たな形をつくり上げる力である。ただし、ただ創造的であるだけでは、本校がめざすべき「エンジニア」とはいえない。人工物は、利用者との相互作用によって絶えず進化していく。そのため、エンジニアには、地域あるいは世界中の人々との視点の共有が必要となる。多角的な視点を確保するための教養、他者との対話力、協働するための団結力、協調性が求められるのである。そして、真に創造的であるためには、情報を収集し分析する能力、および、確実な基礎に裏打ちされた技術を駆使し、対象によってさまざま異なる問題を解決しようとする意欲が不可欠となる。

さらに、21世紀を生きる人間として、欠いてはならない倫理観がある。すなわち、単に自己や所属する組織の利益にもとづく行動ではなく、時にはそれらに反しても、地球上のあらゆる他者と同じ世界を生きる世界市民としての倫理観がそれである。それは、われわれの後にこの世界を生きるであろう未来の他者への視線を内包するものでもなければならない。その視線は、地球環境への配慮を当然の帰結とする。

自己を成長させるだけでなく、技術の進化や地域・国際社会、地球環境保全に貢献できる「エンジニア」こそが、われわれの理想である。

本校における教育は、このような「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」をめざすものである。

◎教育理念に基づいた本校（本科および専攻科）の教育目標

『学んで創れるエンジニア』の育成

ま MAtsue	教養、対話力、技術の基礎を身に付け、 自己を向上させようとする姿勢
つ MaTSUe	さまざまな視点から対象を観察し、 新たな形を創りあげようとする意欲
え MatsuE	世界市民として、社会に貢献し環境を考え、 技術の進化に挑戦する意志

### 【松江工業高等専門学校における研究に関する目標・方針】

本校の教育目標を達成するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。

このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

### 【松江工業高等専門学校における社会との連携及び国際交流に関する目標・方針】

本校では、社会・地域に貢献できる創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニアを教育理念として掲げている。このことから教育研究活動において、地域のニーズに即した課題に積極的に取り組み、成果を地域社会に還元するとともに、本校学生に校外実習等の機会を積極的に提供し、実践的技術力の向上と社会性の養成につとめる。また、本校が有する知的財産を活用した公開講座や工学の芽を育む学校開放事業、あるいは、理工系教育推進事業の支援など多角的に地域の発展につとめる。国際交流についても留学生を積極的に受け入れるとともに本校学生の海外研修を推進する。

### 【教育目標に込めた松江工業高等専門学校の「人づくり」への思い】

本校章のモチーフは、所在地島根県の県木「黒松」です。中心に置かれた高専の文字から若芽が三方に伸びて、さらに大きく成長しようとする力強さを表している。また、三方に伸びた芽が、「人づくり」の「人」の字を形成し、人としての成長だけでなく、人に役立つ人材の育成をも表している。本校では、健全な心身を保ち自己を常に向上させようとする「学び」の姿勢、新たな形をいかなる困難にも負けず「創り」上げようとする意欲、そして技術の進化や地域・国際社会、福祉、地球環境保全に貢献する意志、以上の3点を兼ね備えた「エンジニア」の育成を目標として教育を行っている。

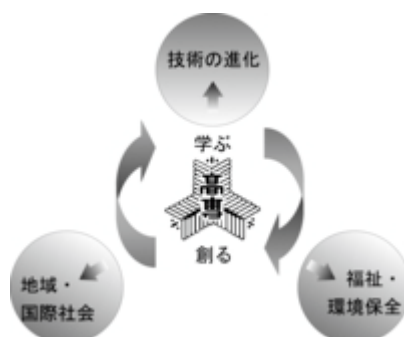


図2 黒松がモチーフの校章

## 教育上の目的

### ○本科の目的（松江工業高等専門学校学則第7条2より）

#### ◆機械工学科

機械工学分野の理論、知識および技術を身につけ、“ものづくり”の中核分野に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

#### ◆電気情報工学科

電気情報工学分野の理論、知識および技術を身につけ、エネルギー・エレクトロニクス・コンピュータ分野に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

#### ◆電子制御工学科

電子制御工学分野の理論、知識および技術を身につけ、メカトロニクスやシステム制御などの幅広い分野に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

#### ◆情報工学科

情報工学分野の理論、知識および技術を身につけ、情報化社会の発展に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

#### ◆環境・建設工学科

環境・建設工学分野の理論、知識および技術を身につけ、様々な社会基盤整備分野に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

### ○専攻科の目的（松江工業高等専門学校学則第42条2より）

#### ◆生産・建設システム工学専攻

機械工学分野又は環境・建設工学分野のより高度な理論、知識および技術を身につけ、当該分野やその境界・融合領域での問題発見・解決能力および創造性を持つ技術者の育成を目的とする。

#### ◆電子情報システム工学専攻

電気工学分野又、電子制御工学分野又は情報工学分野のより高度な理論、知識および技術を身につけ、当該分野やその境界・融合領域での問題発見・解決能力および創造性を持つ技術者の育成を目的とする。

**\*3つのポリシー(一部文章及び図表は松江高専 HP より引用)**

**1. 本科アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)**

本校では、教育目標に掲げている「学ぶ姿勢」、「創る意欲」、「挑戦する意志」を持った「エンジニア」の養成を目指している。その目標を達成するための資質を備えた次のような学生の入学を期待している。

- (1) ものづくりに興味がある人
- (2) 数学や理科に興味がある人
- (3) こつこつと物事に取り組める人
- (4) 人の話がきちんと聞ける人
- (5) 自分から行動を起こせる人
- (6) 自分の意見がきちんと言える人

**★入学者選抜の基本方針**

**(I) 推薦選抜**

中学校若しくは中学校に相当する学校に在籍する生徒で、次の(1)から(3)のすべてに該当し、学校長から推薦された者を対象とし、推薦書、調査書の評価及び面接等を行い、その結果を総合的に判断する。

- (1) 人物が優れていると認められること
- (2) 将来エンジニア（技術者）になろうという意志が強く、その適性を備えていると認められること
- (3) 在学する学校で本校が指定する一定以上の成績を収めていること

**(II) 学力選抜**

本校が求める資質と基礎学力を有した学生を選抜するため、調査書の評価及び学力検査を行い、その結果を総合的に判断する。

**(III) 編入学選抜**

高等学校を卒業した者、又は選抜試験を実施する年度の3月に高等学校を卒業見込みの者、若しくは高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められた者を対象とし、面接及び学力検査等を行い、志望する学科の学習に必要な学力、意欲及び適性のある学生を選抜する。

**2. 本科ディプロマ・ポリシー (卒業の認定に関する方針)**

**(平成 30 年度以前の入学生向け)**

本校では、以下に示す能力・知識を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。なお、下記に定めるすべての能力・知識

を DP 能力，それぞれの能力・知識につけられた番号（記号及び数字）を DP 番号とする。

#### ○全学科共通

- G1. 日本語による記述・理解・発表等の基礎能力がある。
- G2. 日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。
- G3. 外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。
- G4. 自然科学に関する基礎的な知識がある。
- G5. 社会生活のための豊かな見識と，健全な心身をもつ。

#### ○機械工学科

- M1. 機械工学に関する基礎的な専門知識がある。
- M2. モノづくりに必要な基礎的なデザイン能力がある。
- M3. コンピュータを，機械の設計・製作等に役立てる基礎能力がある。
- M4. 実験データを収集・解析・考察できる基礎能力がある。

#### ○電気情報工学科

- E1. 電気・電子機器，コンピュータを扱うための基礎的な専門知識がある。
- E2. 電気・電子機器，コンピュータを作るための専門的な基礎能力がある。
- E3. コンピュータを用い，情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。
- E4. データを収集・解析・評価するための基礎能力がある。

#### ○電子制御工学科

- D1. 電気・電子分野に関する基礎的な知識がある。
- D2. 機械・力学分野に関する基礎的な知識がある。
- D3. 制御・情報分野に関する基礎的な知識がある。
- D4. 各分野の知識を，ものづくりやメカトロニクスに応用する能力がある。
- D5. データを収集・解析・考察できる基礎能力がある。

#### ○情報工学科

- J1. コンピュータをつくるハードウェア技術の基礎的な専門知識がある。
- J2. コンピュータを動かすソフトウェア技術の基礎的な専門知識がある。
- J3. コンピュータをつなぐネットワーク技術の基礎的な専門知識がある。
- J4. データを解析・考察し，説明できる基礎能力がある。
- J5. コンピュータを用いて情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。

#### ○環境・建設工学科

- C1. 構造力学, 土質力学, 水理学, 建設材料学, 環境工学に関する基礎的な知識がある。
- C2. 実験や実習を通じて現象の基本構造を解析するための基礎能力がある。
- C3. 設計製図, 情報処理, 測量に関する基礎的な技術がある。
- C4. 災害を防ぎ, 環境を守る技術の基礎的な知識がある。

#### (令和元年度以降の入学生向け)

本校では, 以下に示す能力・知識を身につけ, 学則で定める修業年限以上在籍し, 所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。なお, 下記に定めるすべての能力・知識を DP 能力, それぞれの能力・知識につけられた番号(記号及び数 j い) を DP 番号とする。

#### ○全学科共通

- G1. 日本語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G2. 歴史・文化・社会に関する基礎知識がある。
- G3. 外国語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G4. 自然科学に関する基礎知識がある。
- G5. 健全な心身を維持増進するための健康・安全に関する基礎知識と実践能力がある。
- G6. 情報機器やコンピュータネットワークを安全に活用するための基礎能力がある。
- G7. 環境保全や技術の進化に貢献するための基礎知識がある。

#### ○機械工学科

- M1. 機械工学に関する基礎知識がある。
- M2. 機械工学に関する機器を取扱い, データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- M3. 機械システムをデザインするための基礎能力がある。

#### ○電気情報工学科

- E1. 電気・電子, 情報工学に関する基礎知識がある。
- E2. 電気・電子, 情報工学に関する機器を取扱い, データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- E3. 電気情報システムをデザインするための基礎能力がある。

#### ○電子制御工学科

- D1. 電気・電子分野, 機械分野, 情報分野の基礎知識がある。
- D2. 電子制御工学に関する機器を取扱い, データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- D3. 電子制御システムをデザインするための基礎能力がある。

### ○情報工学科

- J1. 情報工学（ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク）に関する基礎知識がある。
- J2. 情報工学に関する機器を取扱い，データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- J3. 情報システムをデザインするための基礎能力がある。

### ○環境・建設工学科

- C1. 環境工学，建設工学に関する基礎知識がある。
- C2. 環境工学，建設工学に関する機器を取扱い，データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- C3. 環境・建設システムをデザインするための基礎能力がある。

#### 教育目標と DP 能力の対応

① ま（なんで）

② つ（くれる）

③ え（んじにあ）

DP 番号

DP 番号

DP 番号

G1～5, M1, E1, D1, J1, C1

G6, M2, E2, D2, J2, C2

G7, M3, E3, D3, J3, C3

### 3. 本科カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

本校では，DP 能力を身につけるため，次のような編成方針，実施方針，成績評価基準に基づいた教育を行う。

#### （1）教育課程の編成方針

- (a) 中学卒業後という早い段階から専門課程の教育を実施する。このため，理論的な基礎とともに低学年から実験・実習を重視した実践的技術教育を実施する。
- (b) 幅広い教養と総合的な判断力を涵養するために，一般教養を含めた体系的な教育課程を編成する。
- (c) 教育課程の編成にあたり，適切な学年での科目配置やレベルを検討し，学年を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。
- (d) DP 能力を深化させるために，卒業研究など総合的な能力を駆使する科目を実施する。

#### （2）教育課程の実施方針

- (a) DP 能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス，科目間連携図等によって学生に明示し，学生が履修計画を立てやすいように配慮する。
- (b) 各科目で到達目標をシラバス上で明確にし，学生が到達すべきレベルを明らかにする。
- (c) 各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い，予習・復習など授業時間以外



の時間を含めた「学び」を实践させる。

### (3) 成績評価基準

本校では、授業科目の成績評価は各科目のシラバスに基づき以下の方法で行います。

- (a) 成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。なお、実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。
- (b) 原級留置となった場合、前年度までに履修した科目の単位を認定する。
- (c) 1～3年生までは50点以上の成績をもって単位を認定する。4年生以上にあつては、60点以上の成績を持って単位を認定する。
- (d) 特別学修として認められた資格を取得した場合、及び放送大学等他大学、高専で開設された授業科目の単位を修得した場合、本校の単位として認定することがある。
- (e) 成績評価の客観的な指標として、科目の単位数で重み付けを行った平均点を算出しクラス内での席次を決定する。
- (f) 成績の評語は次表とする。

平成29年度以前入学の学生に対する評語

1～3年生		4, 5年生	
100～80点	優	100～80点	優
79～60点	良	79～70点	良
59～50点	可	69～60点	可
49～0点	不可	59～0点	不可

平成30年度以降入学の学生に対する評語

1～3年生		4, 5年生	
100～90点	秀	100～90点	秀
89～80点	優	89～80点	優
79～60点	良	79～70点	良
59～50点	可	69～60点	可
49～0点	不可	59～0点	不可

## 1. 専攻科アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

科学技術の高度化が進む中、産業界における技術革新と国際化に対応するために、本校専攻科では、「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」を教育理念として定め、研究開発能力、専門知識、職業倫理、国際性を身につけることを目指している。その目標を達成するための資質を備えた、「基礎学習能力があり、専門的技術開発に意欲を有する」学生の入学を期待している。

### ★入学者選抜の基本方針

#### (I) 推薦選抜

次の各号に該当し、専門的技術開発への意欲がある者で、在学高等専門学校長（本校の場合は所属する学科の学科長）の推薦を受けた者を面接、学力検査等によって選抜する。

- (1) 選抜試験の実施年度の3月に高等専門学校を卒業見込みの者
- (2) 学業成績及び人物が優れていると認められる者
- (3) 本校に合格した場合、確実に入学する意思がある者

#### (II) 学力選抜

高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれらの学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対して、面接、学力検査等を行って選抜を行う。

#### (III) 社会人特別選抜

出願時に社会人の経験を1年以上有する者で、高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれらの学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対して、面接、学力検査等を行って選抜を行う。

#### (IV) AO 特別選抜

技術的な作品や取り組み、あるいは技術的な開発経験を有する者で、高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれらの学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対して、面接、学力検査等を行って選抜を行う。

## 2. 専攻科ディプロマ・ポリシー（修了の認定に関する方針）

専攻科では、以下に示す能力・知識を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。なお、下記に定めるすべての能力・知識を DP 能力、それぞれの能力・知識につけられた記号 (P, S) 及び数字を DP 番号とする。

### ○生産・建設システム工学専攻

P1. 機械工学、環境・建設工学いずれかの分野を基礎として、他の分野を融合した境

界領域の知識がある。

P2. 技術者としての企画、提案、解決能力がある。

P3. 技術者としてのコミュニケーション能力、倫理観、社会知識がある。

#### ○電子情報システム工学専攻

S1. 電気・電子工学、制御工学、情報工学いずれかの分野を基礎として、他の分野を融合した境界領域の知識がある。

S2. 技術者としての企画、提案、解決能力がある。

S3. 技術者としてのコミュニケーション能力、倫理観、社会知識がある。

### 3. 専攻科カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

専攻科では、DP能力を身につけるため、つぎのような編成方針、実施方針、成績評価基準に基づいた教育を行う。

#### （1）教育課程の編成方針

- (a) 研究や演習・実習等において、ものづくりや本科の科目と連携した科目を配置し、本科で得た知見を応用し研究・開発能力を涵養する教育課程を編成する。
- (b) 教育課程の編成にあたり、学科を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。
- (c) DP能力を深化させるために、先進的なエンジニアリングデザイン教育を取り入れ総合的な能力を駆使する科目を実施する。

#### （2）教育課程の実施方針

- (a) DP能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス、科目間連携図等によって学生に明示し、学生が履修計画を立てやすいように配慮する。
- (b) 各科目で評価基準をシラバス上で明確にし、学生が到達すべきレベルを明らかにする
- (c) 各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い、予習・復習など授業時間以外の時間を含めた「学び」を实践させる。
- (d) 成績評価を各科目でシラバスに明記した評価基準に沿って公正に行い、その成績評価に用いた成績資料の80%を保管する。また、その正当性を教員の相互チェックにより確認する。さらに、機関別認証評価などの第三者評価によって客観的に評価を実施する

#### （3）成績評価基準

専攻科では、成績評価は各科目のシラバスに沿った方法で行う。

- (a) 成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。
- (b) 実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある

(c) 60点以上の成績をもって単位を認定する。

(d) 成績の評語は次表とする。

100～80点 優

79～70点 良

69～60点 可

59～0点 不可

\*入試形態(URLは松江高専HPより引用)

[令和3年度 本科学学生募集要項](#)

[令和3年度 松江高専 編入学生募集要項](#)

[令和3年度 専攻科学生募集要項](#)

\*試験状況及び偏差値や倍率(URLは松江高専HPより引用)

偏差値 60

[学生定員・現員・入学志願者状況・入学者数・編入学者数](#)

\*卒業後の進路状況(URLは松江高専HPより引用)

[卒業生の進路](#)

就職（主な就職先）

#### ■ 機械工学科

愛知製鋼(株)、ダイキン工業(株)、マツダ(株)、(株)JMS、コベルコ建機(株)、(株)西島製作所、カルビー(株)、ヒカワ精工(株)、サントリープロダクツ(株)、JR 東海(株)、三菱重工業(株)、日立金属(株)、(株)JAL エンジニアリング、JR 西日本(株)、(株)出雲村田製作所、ヒラタ精機(株)、JFE スチール(株)、(株)SUBARU、(株)キグチテクニクス、松江第一精工(株)、中国電力(株)、本田技研工業(株)、島根自動機(株)、(株)山本金属製作所

#### ■ 電気情報工学科

中国電力(株)、関西電力(株)、中部電力(株)、東京電力(株)、JR 西日本(株)、東京ガス(株)、(株)出雲村田製作所、(株)中電工、中電プラント(株)、西日本高速道路エンジニアリング中国(株)、キャノン(株)、オリンパス(株)、京セラ(株)、デンソーテクノ(株)、ソニー(株)、(株)マツダ E&T、三菱重工業(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、ホシザキ(株)、(株)NHKメディアテクノロジー、JFE スチール(株)、(株)山本金属製作所、(株)NTT フィールドテクノ、(株)NTT ファシリティーズ中国

#### ■ 電子制御工学科

東レ(株)、花王(株)、三菱ケミカル(株)、(株)日本製鋼所、中国電力(株)、関西電力(株)、大阪ガス(株)、JR 西日本(株)、マツダ(株)、(株)NHKメディアテクノロジー、サントリープロダクツ(株)、セイコーエプソン(株)、ダイキン工業(株)、東京エレクトロン FE(株)、三菱電

機システムサービス(株)、(株)NTT ネオメイト、(株)出雲村田製作所、島根自動機(株)、(株)島根富士通、(株)ワコムアイティ、ホシザキ(株)、小松電機産業(株)、(株)スター精機、(株)キグチテクニクス

#### ■ 情報工学科

JR 東海(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、富士通(株)、NEC ネットエスアイ(株)、関西電力(株)、(株)プロビズモ、NEC フィールドディング(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、三菱電機コントロールソフトウェア(株)、NTT コム ソリューションズ(株)、コニカミノルタジャパン(株)、(株)メイテックフィルダーズ、(株)NTT フィールドテクノ、コベルコソフトサービス(株)、メルコ・パワー・システムズ(株)、(株)イーウェル、(株)ファインディックス、(株)メンバーズ

#### ■ 環境・建設工学科

国土交通省、日特建設(株)、(株)コスモ建設コンサルタント、JB 本四高速(株)、島根県庁、松江土建(株)、(株)日本海技術コンサルタントツ、東京ガス(株)、雲南市役所、まるなか建設(株)、山陰クボタ水道用材(株)、JXTG エネルギー(株)、浜田市役所、(株)フクダ、(株)中林建築設計事務所、中国電力(株)、五洋建設(株)、(株)イズコン、積和建設中国(株)、JR 西日本(株)、鹿島クレス(株)、(株)ワールド測量設計、NEXCO 西日本(株)、JR 東海(株)